

ふれあい便り

～2018年慰安旅行編～



株式会社ホニック
有限会社ピュアホニック
春日井市新開町字平淵 81-4
TEL0568-32-7838・FAX0568-32-4221

今年の慰安旅行は富士山!

今年の慰安旅行は山梨方面です。体調と体重と胃袋は整えてきましたでしょうか。編集者はばっちり…とは言えませんが胃袋の準備は万端にしていきました。帰った頃にはがっつり増量していることでしょう…。それから今年は過去最高の参加人数になりました。出張が多く重ならなくて良かったですね。今年の新入社員は営業部のH田さん一人。さて新人芸では何を披露して下さるのか。

1日目

さて、まずは腹ごしらえですね。いつも通りバスへ乗り込み恒例の肉までバスでゆらゆら揺られます。早々にビールを飲み始める方々、昼前にお菓子をモリモリ食べている方々、寝ている方々(編集者はここ)など様々。日頃の疲れをバスの中でも自由に過ごしてリフレッシュして欲しいですね。今年のお肉は三笑亭本店です。

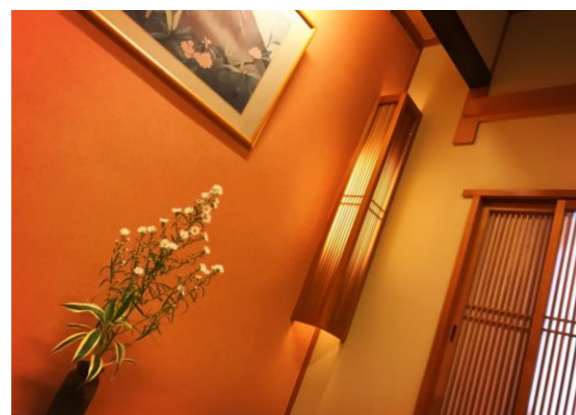


男性社員は黒毛和牛サーロイン 200g、女性社員は黒毛和牛ヒレ 150gのステーキをいただきました。見て下さいこのお肉。柔らかくて最高です。勿論お肉が出てくる前のお料理も美味しかったです! お刺身とお肉が同時に楽しめるのは嬉しいですね。勿論皆さんべろりと完食。

実はこの日はお肉を食べただけで1日目は観光無し。時間が押しに押ししてしまい、予定していた忍野八海の散策はなくなりました。

ですがホニック社員は特に気にしません。「いいよー」の一言で済むのです。平和ですね。

旅館に着くとそれぞれの部屋で暫しの休憩です。先に温泉に入るのもよし、部屋でのんびり過ごすのもよし。しかし編集者達は宴会が始まるまでにやり遂げないといけないことがありました。それは最上階の露天風呂に入ることと、お茶室に言って和菓子とお抹茶を頂くこと。露天風呂は1日置きで男女が入れ替わるのですが、この日に入れなければ次の日は男風呂になってしまうのです。しかも露天風呂の解放は18時まで。宴会後は閉まってしまいます。お茶室は無料券が配布されているので、使わないと勿体ない! 残された1時間半で全てのミッションをクリアすべく、我々はまず急ぎ足で露天風呂へ向かいました。外の気温も丁度良く、眺めも最高です。寝そべって入れるスペースもあり、きゃっきゃと楽しんでいましたが他のお客さんを見て気付きました。身体を隠す専用の衣服があったことに…見晴らしが良すぎるので外から身体が見えないよう、配慮してあるんですね。我々は生まれたままで何も身に付けていませんでした。…まあ大丈夫でしょ! 減るものではないしがははと笑って終わりです。



露天風呂をクリアしたので次はお茶室へ。そのお茶室までの道のりがまた、とても素敵な空間でした。なんだか妖怪が住んでいそうです。美味しいお抹茶と和菓子を頂きほっと一息。そうこうしている間に宴会の時間が迫ります。無事ミッションをクリアした我々は宴会場へと急ぎました。

宴会

さて、皆さんもそれぞれ一休みし、いよいよ楽しい宴会の始まりです! 早く飲ませろーという心の声は置いておき、まずはいつも通りの社長の挨拶から。まだお肉がお腹に残っている感覚はありますが、ご馳走なら別腹ですよ。ちなみに宴会のお食事では炊き込みご飯がものすっごく美味しかったです! お米が美味しかったのでしょうか。

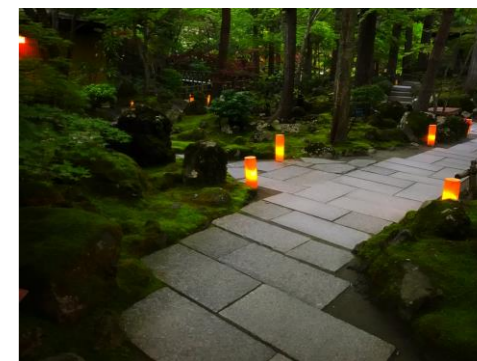
そうしていよいよ宴会芸の始まりです!

まずはトップバッターの新社員、H田さん。あまり新社員感を感じられませんが新社員なのです。趣味のアイスホッケーの制服を纏い、熱唱してくれました。選曲はセリーヌ・ディオンの to love you more 衣装も相まって世界観が不思議な状態でしたが、流石英語はお得意ですね。続いては製造部の方々の出番です。



K山さんは去年も披露してくれた走れコータローの実況+コーラー気飲みをしてくれました。む、無理しないでね…。(昔それで吐いた社員がいる) そしてO岡くんによる再びコーラー気飲み。無理しないでね!! 無事二人とも何も吐瀉せずに終わりました。しかしこう見るとコーラを飲むだけでもキャラクターが出ますね。新たな発見です。そして最後はRさん、Bさんによる歌上手コンビのデュエット。お二人とも声がいいんでしょうね。スーッと耳に馴染みます。聞き入るとはまさにこのこと。ハモリも綺麗でした! ホニック神起と名付けましょう。

個人での出し物を終えたあとは暫く食事を楽しみつつ、F井さんの用意してくれたゲームをすることになりました。その名も偉人の名言クイズです。偉人の名言の一部を隠し、その隠された部分を答えるゲームです。正解には5ポイント。不正解でも面白ければ3ポイント。つまらなければ0ポイントです。要するに大喜利ですね(笑)



A・B・C・Dの4チームに別れました。大喜利と聞いて喜ぶDチーム(編集者はここ)



真面目に答えを考えるチームもいればそもそも当てに行く気がないチームもありました。

不正解でもポイントがもらえるなら、ふざけるが勝ち！特に面白いことじゃなくても「イエーイ！」と盛り上げ、ほとんどごり押しの状態で優勝したのは我らDチームでした。

そしてDチームの中からさらに優勝チームを決めます。まさか仲間同士で戦うなんて…と思った人はおそらく一人もいません。最後のクイズは「〇〇の人とは握手は出来ない」

皆さんはなんだと思いますか？編集者の頭に過ぎたものは

「トイレのあと手を洗っていない人とは握手が出来ない」でした。K林さんと同じ回答…思考回路が似ているのかな(笑)優勝は「手が無い人とは握手が出来ない」と答えたBさんでした！



そして恒例の社長とジャンケンで締めて、楽しい宴会は終了したのでした。

さて宴会後、編集者達は大浴場へと向かいます。

そこで日本の風呂文化が分からないのか、わたわたとして困っている外国人観光客さんがいました。

バスタオルや荷物を持ったまま浴場に入ろうとしたり、ロッカーの鍵の閉め方が分からなかったり…丁寧に教えたつもりですがひとつ思ったことが。鍵の閉め方は同じだから分かるでしょう…(笑)そんなツッコミを入れつつも大浴場は広くて最高でした！

皆さん宴会後はどのように過ごしたのでしょうか。カラオケや二次会に行ったのでしょうか。

今回編集者は二次会に行かなかったので気になります。ちらり。どうやら和太鼓パフォーマンスを見たあとカラオケに行っていたようです。リラックスモードですね。



次の日に備えるため、編集者達はお先に夢の中へ…



2日目

朝食は豪華なバイキングです。昨夜の宴会ご飯でも炊き込みご飯が一番美味しいと思ったのですが、



朝のお米も美味しかったです。

※写真にご飯は入っておりませんが。

パンの種類も豊富で、バイキングでこんなにパンが多いなんて初めて見た！くらいです。

朝から豪華なお食事でお腹がぱんぱんになってしまいました。お腹を満たして集合写真を撮影した後、富岳風穴に向かいます。実は編集者が一番楽しみにしていた場所です。

思った以上に山道、そして生憎の雨模様となってしまいました。少しでもヒールのある靴を履いている女性陣は転ばないように注意しながらいざ穴の中へ。中へ入るとなんと5度！すでに夏の装いの我々はかなり震えました。下からライトを当てているとはいえ、綺麗ですね！しかし、つららを見ると横からチョップしたくなるのは編集者だけでしょうか。

ひんやりとした世界から抜け出し、お次は富士花鳥園へ。



花とフクロウに癒されてからはすぐに昼食の時間です。

本当は白糸の滝に向かう予定でしたが、1日目同様時間が押ししてしまったことと雨足が強まったこともあり、ショートカット。

正直朝のバイキングがまだ胃の中に残っていたので果たして食べられるのかと不安な状態で焼津四川飯店へ。

料理は大皿に乗ってやってくるのですが皿が空にならないと次の料理を運んでくれないシステムらしく、残さないように必死でした。ですが編集者の座ったテーブルにはよく食べる若い社員がいたので安心です。食べられる量を取ったら大皿のまま彼らへ…食べきってくれてありがとう(笑)



お腹を満たしてすぐに焼津さかなセンターへ。お腹いっぱいと言っておきながら当然のようにソフトクリームを社長に強請る我々。あまおうソフトや抹茶ソフトを頼む中で編集者はिकासミソフトにしました。口の周りが真っ黒です。

さかなセンターを後にするとあとはホニックへ帰るばかり。

帰りのバス恒例のDVDを流して帰路につきます。しかし毎回思うのですが、いつも最後まで見れずに終わってしまうのです。DVDをかけるタイミング、もう少し早めませんか？

最後若かりしキムタクがどうなったか分からないんですよ！！※見ていたのは武士の一分でした。

と少々憤慨しつつも、疲れた編集者たちは大体眠っていたのでした。

今回はショートカットした場所が二カ所もあったり、雨が降ったりと少々残念な場面もありましたが、今年も楽しい慰安旅行でした。食い倒れツアー化しているという話はさておき、毎回幹事をしてくれている上原さんには感謝です。ありがとうございます！

早速体重計に乗った編集者は毎年恒例のごとく死にました。分かりきっているのにいちいちショックを受けるのをやめたいです。

自分へのご褒美は終わったので、身体の調子を整えつつ暑い夏を乗り切りましょう！



見て下さいこの可愛いフクロウたちを。ショーで檻から出ている生のフクロウを見ましたが、でかい。さりげなくフクロウカフェに行ったことがある編集者、フクロウのサイズを分かっている気になっていました。羽を広げると相当な大きさで大迫力でした。